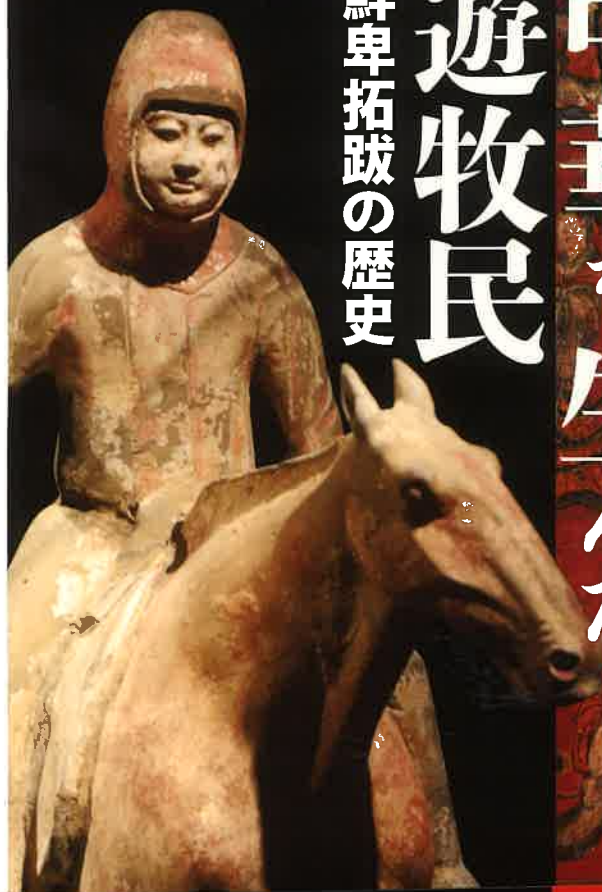




785



遊牧民 鮮卑拓跋の歴史

松下憲一
Maushira Kenichi

中華を生んだ遊牧民

鮮卑拓跋の歴史

松下憲一

講談社
選書
メチエ



785



9784065318393



1920322017007

ISBN978-4-06-531839-3

C0322 ¥1700E

定価：本体 1700円 (税別)



KODANSHA

MÉTIER

後漢の滅亡から、隋の中国統一までの「魏晋南北朝時代」。この長い分裂時代の主役が、遊牧民・鮮卑拓跋部である。代国の王・拓跋珪が三八六年に開いた王朝・北魏は、五胡十六国を平定し、中国の北半分を手中に入れる。遊牧民の伝統を残した王朝は、漢族の文化を取り込み、洛陽に新都を築き、雲崗・龍門に壮麗な石窟寺院を開く。胡漢が融合した「新たな中華」を生んだ拓跋部の人々は、その後の隋唐帝国でも活躍し、中国社会に溶け込んでいく。

新たな時代は、 夷狄が開いた。

大分裂から統一へ、中国史の分水嶺

4世紀の華北に遊牧王朝・北魏を建て、五胡十六国を統一した鮮卑拓跋部。「野蛮な胡族」が漢族を支配し、今にいたる「中華のスタンダード」を創造する対立と融合の300年史。

遊牧民が中国に入って支配したとき、それまでの中華文明を否定し、破壊したわけではなかった。かといって、圧倒的な中華文明に飲み込まれてしまったわけでもない。遊牧民は中華文明のなかから必要なものを選択して受容した。と同時に、胡俗を持ち込んだ。ここに胡俗と漢俗の融合が生まれ、あらたな中華として再生される。その繰り返しが中国の歴史である。

——本書「おわりに」より



現代ビジネス
「学術文庫&
選書メチエ」
サイト